

旅ってきました。沖縄編

正月休みを利用して家族サービスです。

12月30日(金)～1月2日(月)までの四日間で沖縄旅行です。

夏の沖縄では海でのオプションが一杯ありますが、ダイビングができない我が家は、もっぱら観光です。でも、とっても暖かかったです。最高気温は18～22位で、最低気温も15前後でした。

最終日は沖縄の最低気温より帰ってきた静岡の最高気温の方が低かったです。

小雨が降り、気温が18の日は、ホテルのフロントマンが「今日は寒い」って言っていました。

アウターのダウンジャケットは一度も出番がありませんでした。

で、今回の旅行は観光目的ですので「ちゅらうみ水族館・朱里場・平和祈念公園・ひめゆりの塔」です。

残念な事に元旦に行った「平和祈念公園」の資料館はお休みだったため、静岡県出身者の戦没者の石碑に献花をしてきました。

ひめゆりの塔も内部は撮影禁止でしたので、お見せできる写真がないです。でも、非常に考えさせられる場所でありました。機会がありましたら、是非足を運んでほしい所です。

元旦の朱里城は王朝絵巻？みたいで、鮮やかでした。(NHKの朝ドラを見たい嫁にはリンクするものがあつたようですが……？)



出発便より御前崎を望む



我が息子の全財産(この所持金で沖縄?)



初日のホテルより(あんな処にRACが?)



ライブ？を見ながら晩酌です



ここから「ちゅらうみ水族館」



ニモ っがいっぱい



ジンベイ×2



イルカのジャンプ



ここから「朱里城」 守礼門



イベントが終わってました



TVで仲間ユキエが何かしてた場所



朱里城全景



御差床(うさすか) きれいでした



元旦の様子





王が飲んだ後の神酒を廻します



サービスショット



当時の様子の模型(こんなに人はいない?)



お休みの平和記念公園資料館



不発弾やキャタビラ



ひめゆりの塔の案内



石碑(ここから思慮深くなった?かな)



おまけ:(どこの国のゴミ?)我々も注意です

最後に、平和祈念公園での配布資料も添付します。私には少し難しいですが、せっかくなんで参照下さい。

美ら島に歌はあるが声がない

私事、小学校のとき校舎をおわれ、木の下学習、兵隊の手伝い。空襲、艦砲、地上戦、降参だ。軍国少年は昭和二四年密航船で糸満港を脱出。四日後の夜中小島に放り出され、定期船で鹿児島へ。知人も食料も仕事もない異郷の十代は地獄だった。アリカラ物ヤウビタシガ、事ヤワカラランナテイ。グソー又ナガタビンチカクナテイウリバ、闇又ユヌ厩イスジカタラニバ・と思つてゐる。

伝説と人物(種族)・西暦一五〇—二〇〇年ころ、武内宿禰という人物がいて、彼は韓国でも活躍する。時には仲哀天皇にしたがつて九州のクマソヤやハヤト征伐にも同行する。武内氏には五人の子孫がいて、そのなかに蘇我氏という勢力のつよい豪族がいた。一族の筆頭に稲目がいて、その子に馬子、馬子の子に蝦夷、蝦夷の子に入鹿、そして馬子の孫の石川麻呂がいる。この蘇我が実は蝦夷の先祖にあたる。

日本の先住民族はアイヌ・神武紀によると愛彌詩は蝦夷となるようだ。現代語の蝦夷はアイヌのこと、アイヌは政府も認める先住民族である。蘇我族は飛鳥以前から大和一带をおさめる豪族で本拠地は、大和国高市郡蘇我邑(奈良)となつてゐる。ちなみに、国連人権委員会もアイヌと沖縄の人を国内法で、先住民族として認めるよう日本政府に勧告している。

飛鳥革命でアイヌの危機・六四五年、耶馬台をおさめてきた蘇我一族を倒すため、立ち上がったのが中大兄皇子(後の天智天皇)と中臣鎌足(後の藤原鎌足)だ。方法は、石川麻呂を仲間に入れてだまし討ちにする。この事件を大化の改新と称え、日本の歴史にこのときから年号が記録される。息子を失った蝦夷は、やしきに火を放ち自害する。そのときに歴史を知る資料も焼失したとある。アイヌを倒し権力を手にいれた藤原は、その後天下をほしいままに振舞うことになる。

えぞせいばつ・七八一年・奈良からはじまつて現在の岩手県あたりまで、先住民族は住んでいた。朝廷軍は、しばしばアイヌせいばつを試みるが、そのつど反撃されてきた。そこで桓武天皇は、征夷大將軍という最高の位を坂上田村麻呂にあたえて、せいばつを命じる。教科書にも東北地方には京都の朝廷にしたがわぬ蝦夷とよばれる人たちがいたとある。▽ちなみに、坂上田村麻呂の先祖は大陸からの渡来人であり、桓

武天皇の生母も百済の武寧王の子孫とある。従つて、日本人の先祖は、大陸(隣国)となる。となると、兄弟先祖に対する侵略、悪口はなにもものなのか?

蝦夷で最後の戦い・一六六九年、北海道(蝦夷地)に領があつた松前藩は、アイヌを相手にあくどい八九三商法で富をえていた。松前藩に対して反乱をおこしたのが族長のシャクシャインだ。強力な先住民の勢力に対して、仲直りを申し出たのは松前藩だ。素直に応じた族長はお酒の席で殺害される。

日本の国家の常識はタテマエだと

日本は神様が日向の国から奈良へ向けて戦を始めたが、単一民族なら対話ができただけで戦う必要はなかつたと思う。日本は政治も宗教も組織で管理され、本音は禁句だから六十余年たつても進化しない。悪いのはシギタリを新人に強制する顧問と一部の幹部だ。古い政党や二世議員、金権議員もいけない。彼らは、問答無用、切り捨てごめんの蛮行、一五回の侵略、国際法無視中央集権、国債を戦争で消滅した歴史も承知だからずるい。